

カードゲームで遊びながら、 地域みんなの意見を聞きました！

(東京都練馬区にて実施したカフェ)
開催詳細：P39 参照

防災カードゲームを使い、ゲーム感覚で災害時のジレンマを疑似体験しました。カードゲームを通じ、災害時に起こりうる様々な状況をイメージし、そのような状況になったら「自分はどの行動するか?」「何をどう備えておいたらよいか?」などをみんなで考え、話し合いました。ゲームだからこそ、遊びながら楽しく防災行動や知識を知ることができました。



【クロスロードとは】

今回用いた教材は、**災害対応カードゲーム「クロスロード」**。トランプ大のカードを利用した手軽なグループゲームです。「クロスロード」とは、「岐路」、「分かれ道」のことを意味します。参加者はゲームの中で、災害対応を自らの問題として身近に考え、自分とは異なる意見・価値観の存在への気づきを得ることができます。楽しく、しかし真剣に災害対応について学べる防災教材です。

出典：京大生協 HP (クロスロード販売)「クロスロードとは?」より



クロスロードのカード
自分の設定と状況が書かれたカード(上)と、その時に選ぶイエス、ノーの答えのカード(下)

【クロスロードの進め方】

- ルールの説明・カード準備
- 自己紹介(グループ毎)
- 問題読み上げ
- 「YES」「NO」カードを選択
- 一斉に表に向ける
- 多数派は「青ざぶとん」
少数派は「金ざぶとん」を選ぶ
- 意見発表
- 振り返り



「うーん」と悩みながら自分の答えを選びます。



多数派の人、または、たった一人の答えの場合も、貴重な意見、ということでポイントをもらえます。今回は、ポイント代わりにお菓子を準備しました。



どうしてその答えを選んだのか、を発表してもらいました。

【こんな問題をやってみました！】

参加者の本音を引き出した問題

あなたは、主婦です。防災のため、風呂の残り湯を浴槽にためておくといわれる。しかし、浴室がかびるかもしれないし、湯あかがつくと掃除が面倒。それに滅多に災害なんてこない。貯めるなら、「YES」 / 貯めないなら、「NO」

参加者の答えは「YES（貯める）」が多かったです。さらに「では、実際に今朝風呂水をためていた人は？」という問いかけには、先程「YES（貯める）」といった人の約半分が、実際に貯めていたことがわかりました。このように、理想の答えはわかっていながらも、実行できていないことがあります。ちなみにこの問題の解説では、大人が1日に必要とする水は1人あたり1～2リットル、飲み水以外に必要な水（トイレ、手洗い等）は10～20リットルで、お風呂の浴槽はだいたい100～120リットルなので、お風呂に水が貯まっていれば、生活用水が確保できる、ということでした。

色々な意見がでた問題

あなたは、市民です。大きな地震のため、避難所（小学校体育館）に避難しなければならない。しかし、家族同然の飼育犬「もも」（ゴールデンリトリバー、メス3歳）がいる。避難所に連れていくなら、「YES」 / 連れて行かないなら、「NO」

「YES（連れて行く）」の問題点として、アレルギー、衛生面、泣き声、人への危害が、また「NO（連れて行かない）」の問題点として、避難所のペットの受け入れ体制、餌の問題、トイレの問題、野犬化などが出されました。



時には、青、赤のカードを使って
全員一斉に答えをあげました。
どんな答えが多いのか、一目でわかります。



大きな紙に YES、NO の問題点を
書き出してみました。

【開催のポイント】✍️

ゲームを入口にすることで、肩肘をはずずに「防災」について考えてみる機会をつくれます。また、クロスロードを一度経験すると、自分でもできそう、やってみよう！と思われる方が多いようです。ぜひ、一度クロスロードを使って、身近な災害時の備えや対応をみんなで考えてみませんか。

【やってみませんか？】💡

クロスロードの答えに正解はありません。そのため、防災の専門家がいなくても、人前で話し慣れた人（ボランティア活動に熱心な人、司会業、営業職など）であれば、クロスロードを楽しく、円滑に進行させることができます。また、専門的な内容でフォローして欲しいときには、区の防災職員、自主防災組織のリーダーなどに参加してもらうと、さらに参加者の理解が深まります。独自の地域性や問題を反映したオリジナル問題を作るのもいいですね。